［　シラバス　目次　］

【発展科目】

＜福祉関連科目群＞

福祉社会科学課題演習 ･･･ 17
社会福祉原理論 ･･･ 18
社会保障政策特論 ･･･ 19
福祉政策特論 ･･･ 20
高齢者福祉特論 ･･･ 21
児童・家庭福祉特論 ･･･ 22
障害者福祉特論 ･･･ 23
生活困窮者支援特論 ･･･ 24
医療福祉特論 ･･･ 25
福祉心理学特論（福祉分野に関する理論と支援の展開） ･････････････････････････ 27

授　業　科　目　名（科目の英分名）
福祉社会科学課題演習（Problem Based Learning for Science of Welfare Society）

必修選択	単位	対象年次	学期	曜・限	担当教員名
選択	2	1	前期	水・6	上白木悦子、三好禎之

【授業のねらい】

我が国の社会構造の変化に伴い、医療や生活支援が多様化・複雑化している。そのような「福祉」「医療」「心理」における課題を総合的に俯瞰し、ミクロ・メゾ・マクロのレベルから適切に課題を捉え、科学的に分析する能力と課題解決能力を得ることを目的とする。

【具体的な到達目標】

・１つの課題を「福祉」「医療」「心理」の領域の視点から総合的に捉え説明することができる。

・１つの課題をミクロ、メゾ、マクロのレベルから捉え説明することができる。

・１つの課題を総合的・科学的に分析し、具体的・実際的な問題解決方法を提案することができる。

・自ら見いだした問題点を解決するための資料を収集・分析し、自分の考えをまとめて伝えることができる。

【授業の内容】

第１回：総合的に福祉と健康科学を俯瞰する学術領域とは

第２回：オリエンテーション（科学的な分析と課題解決能力についての解説）

第３回：事例提示（課題抽出・学習課題抽出）

第４回：事例提示（課題抽出・学習課題抽出）

第５回：ミクロレベルの課題検討（グループ討議）

第６回：ミクロレベルの課題検討（発表）

第７回：ミクロレベルの課題（講義）

第８回：メゾレベルの課題検討（グループ討議）

第９回：メゾレベルの課題検討（発表）

第 10 回：メゾレベルの課題（講義）

第 11 回：マクロレベルの課題検討（グループ討議）

第 12 回：マクロレベルの課題検討（発表）

第 13 回：マクロレベルの課題（講義）

第 14 回：総括（発表）

第 15 回：総括（発表）

☆学生がより深く学ぶための工夫

本科目は、課題に対し受講生自ら問題点を見いだし、討議を重ね解決していく PBL（Problem Based Learning)方式にて行う。

【時間外学習】グループで抽出した課題について、グループ討議ができるように、自己学習を行っておく。

【教科書】　特に使用しない

【参考書】　適宜紹介する

【成績評価の方法及び評価割合】

グループ討議の態度（自己学習と討議への積極的参加）と総括での発表より総合的に評価する。

【注意事項】　特になし

【備考】　特になし

授　業　科　目　名（科目の英分名）
社会福祉原理論（Principles and Philosophy of Social Policy and Social Work）

必修選択	単位	対象年次	学期	曜・限	担当教員名
選択	2	1	前期	木・6	廣野俊輔

【授業のねらい】

この講義は、地域共生社会を実現する上での課題を念頭に置きつつ、現状における社会福祉の原理と実際を把握することを目的として展開している。そのことを通じて、地域共生社会のイメージを明確にするとともに、社会福祉のミクロレベル、メゾレベル、マクロレベルの課題を理解し、自分なりに説明できることをねらいとしている。特に高齢者、障害者、児童といった対象別の理解だけでなく、包括的な支援の必要性を理解することを目指す。

【具体的な到達目標】

・社会福祉の支援についての研究的視点や方法について理解し説明することができる。

・地域の社会福祉問題の多様性と共通点を理解し説明できるようになる。

・社会福祉の諸制度を理解し、その課題について研究的な観点から説明できるようになる。

・ミクロレベル、メゾレベル、マクロレベルからエビデンスに基づいた包括的な支援のあり方について理解し説明できる。

【授業の内容】

第１回：イントロダクション（社会福祉の理念、歴史、制度と法体系、学説等の観点から体系的に学ぶことについての概説）

第２回：社会福祉の定義①　社会的排除と社会的包摂

第３回：社会福祉の定義②　共生の理念と社会福祉

第４回：日本の社会福祉の歴史

第５回：海外の社会福祉の歴史

第６回：社会福祉の理論（1）社会政策と社会福祉の関連

第７回：社会福祉の理論（2）個人の主体性と社会福祉、特に岡村理論に注目して

第８回：社会福祉の理論（3）社会福祉とそれを向上させる運動、一番ケ瀬理論、真田理論に注目して

第９回：社会福祉の理論（4）社会福祉の運営をめぐる理論、特に三浦理論の意義に注目して

第10回：共生社会を実現する上での諸問題（1）：マイノリティと社会福祉

第11回：共生社会を実現する上での諸問題（2）：制度の狭間をどう考えるか

第12回：共生社会を実現する上での諸課題（3）：スティグマと社会福祉

第13回：共生社会を実現する上での諸課題（4）：社会福祉と地域格差

第14回：社会福祉と諸条約

第15回：今後の社会福祉の展望

☆学生がより深く学ぶための工夫

講義に関連する新聞記事等を積極的に紹介し、受講生の意見を報告してもらう。

【時間外学習】　社会福祉に関する新聞記事に目を通すこと

【教科書】　講義中に資料を配布する

【参考書】　講義中に紹介する

【成績評価の方法及び評価割合】

最終レポート（70%）、授業への積極的な参加（30%）

【注意事項】　特になし

【備考】　特になし

授　業　科　目　名（科目の英分名）
社会保障政策特論（Special Seminar on Social Security）

必修 選択	単位	対象 年次	学期	曜・限	担当教員名
選択	2	2	後期	火・6	松本由美

【授業のねらい】
社会保障は私たちの生活の安定や安心を確保する上で重要な役割を担っているが、少子高齢化や家族のあり方の多様化などの社会経済状況の変化を背景として、さまざまな課題に直面している。授業では、医療・介護保障、所得保障、生活保障(社会保障と雇用との関係)の現状、課題、政策動向等について分析・考察を行う。また、比較の視点から諸外国の社会保障制度・政策について検討し、日本における社会保障のあり方と問題解決策を検討する。

【具体的な到達目標】
・社会保障制度・政策の現状と今日的な課題を理解する。
・社会保障の政策課題を総合的・多角的に検討し、自らの見解を示すことができる。
・国際比較の視点から日本の社会保障制度・政策を捉え、今後のあり方について考える。

【授業の内容】
第 1 回：授業の進め方等についてのガイダンス及び社会保障政策の概説
第 2 回：医療保障①(医療保険制度)
第 3 回：医療保障②(医療提供体制)
第 4 回：医療保障③(課題と改革方策)
第 5 回：介護保障①(介護保険制度)
第 6 回：介護保障②(課題と改革方策)
第 7 回：所得保障①(年金制度)
第 8 回：所得保障②(課題と改革方策)
第 9 回：所得保障③(公的扶助、私的年金等)
第 10 回：生活保障①(社会保障と雇用の関係)
第 11 回：生活保障②(再編の方向性)
第 12 回：社会保障制度の国際比較①(医療)
第 13 回：社会保障制度の国際比較②(介護)
第 14 回：社会保障制度の国際比較③(所得保障)
第 15 回：まとめ（社会保障政策についての総括)
☆学生がより深く学ぶための工夫
知識・理解を深めるために、テーマごとに報告とディスカッションを行う。

【時間外学習】各テーマに関する報告を割り当てるので、報告者はテキストの該当部分の概要を作成するとともに、自分の見解を示すことができるよう準備を行うこと。その他の参加者もテキストを熟読し、自分の見解と疑問点をまとめておくこと。毎回の授業後は、報告やディスカッションを踏まえて自らの理解を確認し、必要に応じて追加的な学習を行い、知識を体系的に整理しておくこと。

【教科書】土田武史編著『社会保障論』成文堂、2015 年
池上直己『日本の医療と介護―歴史と構造、そして改革の方向性』日本経済新聞出版社、2017 年
駒村康平『日本の年金』岩波新書、2014 年
宮本太郎『生活保障―排除しない社会へ』岩波新書、2009 年
松本勝明編著、加藤智章、片桐由喜、白瀬由美香、松本由美『医療制度改革―ドイツ・フランス・イギリスの比較分析と日本への示唆』旬報社、2015 年
埋橋孝文編著『社会福祉の国際比較』放送大学教育振興会(NHK 出版)、2015 年

【参考書】授業のなかで適宜紹介する。

【成績評価の方法及び評価割合】
授業への参加の積極度と報告の内容等により総合的に評価する。

【注意事項】特になし

【備考】特になし

授　業　科　目　名（科目の英分名）
福祉政策特論（Welfare Policy）

必修 選択	単位	対象 年次	学期	曜・限	担当教員名
選択	2	1・2	後期	集中	垣田裕介

【授業のねらい】

日本の福祉政策、あるいは福祉供給という社会のサブシステムは、今日、どのような社会経済的環境のなかにあり、どのような課題に直面しているであろうか。本講義では、前半部分で、福祉政策を取り巻く今日的環境の把握を目指し、雇用・家族・福祉国家をめぐる政治経済学を検討する。後半部分では、福祉政策が直面する今日的課題として、社会的排除／包摂の議論や実態を取り上げる。そのことを通して、日本の福祉政策の制度や国民生活をめぐる問題を、今日の社会経済や福祉資本主義のうねりの中に位置づけて把握する視点を養う。

【具体的な到達目標】

・今日の雇用や家族、福祉国家のありようを、福祉政策を取り巻く環境として政治経済学的に分析・検討する視点を養う。

・福祉政策が直面する社会的排除／包摂について、議論の潮流をふまえたうえで、具体的な実態や課題を把握する。

【授業の内容】

第 1 回：ガイダンス（福祉政策についての概説）

第 2 回：福祉資本主義のなかの福祉政策と社会的排除／包摂

Ⅰ 福祉政策の政治経済学

第 3～4 回：福祉資本主義の多様性と福祉レジーム

第 5～6 回：福祉資本主義のなかの雇用・家族・福祉国家

第 7～8 回：福祉資本主義のなかの新しい社会的リスク

Ⅱ 福祉政策と社会的排除／包摂

第 9～10 回：貧困と福祉国家、社会的排除と社会的包摂

第 11～12 回：日本における社会的排除の実態分析

第 13～14 回：日本における社会的包摂の実践課題

第 15 回：まとめ（福祉政策についての総括）

☆学生がより深く学ぶための工夫

ディスカッションを取り入れることにより、問題・課題の多角的な理解と主体的な学びを促す。

【時間外学習】授業中に紹介する文献や、授業内容に関する新聞記事などを積極的に読んでください。

【教科書】特になし

【参考書】講義の中で適宜紹介する。

【成績評価の方法及び評価割合】受講態度や発表内容等にもとづいて総合的に評価します。

【注意事項】特になし

【備考】特になし

授　業　科　目　名（科目の英分名）
高齢者福祉特論（Elderly　welfare）

必修 選択	単位	対象 年次	学期	曜・限	担当教員名
選択	2	1・2	後期	集中	隅田好美

【授業のねらい】

認知症をもつ人の事例を中心に、個別的な支援実践（ミクロ）、地域における支援実践（メゾ）、政策や文化・価値感（マクロ）でのケアの問題を紐解き、「よいケア」および「地域包括ケア」のあり方について考えていく。さらに、介護と家族、高齢者のターミナルケアや尊厳死について議論する。

【具体的な到達目標】

・高齢者のケアに関する理論と現状について議論することができる。

・高齢者介護と家族について議論することができる。

・高齢者のターミナルケアや尊厳死などについて議論することができる。

【授業の内容】

第 1 回：ケアの思想

第 2 回：ケアの利用と家族介護

第 3 回：ケアの統合とトータルな支援

第 4 回：ケアの質

第 5 回：ケア労働とケアワーカー

第 6 回：相互行為としてのケア

第 7 回：高齢者介護と家族の課題と地域包括ケア

第 8 回：介護殺人から考える支援のあり方

第 9 回：　ヤングケアラーの課題と支援（教育職との連携）

第 10 回：認知症の人を支える支援（ミクロの課題と支援）

第 11 回：認知症の人を支える支援（メゾの課題と支援）

第 12 回：認知症の人を支える支援（マクロの課題と支援）

第 13 回：エンドオブライフケア

第 14 回：最後を迎えるための支援と課題（医療処置の自己決定）

第 15 回：在宅での看取りを支える地域包括ケア

☆学生がより深く学ぶための工夫

指定された文献を批判的に読み解き、ディスカッションを通して自分の考えを深めていくことを学ぶ.

【時間外学習】指定された資料を熟読しておくこと。すでにさまざまな分野で実践している人は、日常の実践を理論的に検討する習慣を身につけること。

【教科書】岩田正美監修　福田あけみ編著『リーディング日本の社会福祉３　高齢者と福祉―ケアのあり方』日本図書センター 2010

【参考書】上野 千鶴子『老いる準備―介護することされること』学陽書房 2005

春日 キスヨ 『変わる家族と介護』講談社現代新書 2010、

石飛幸三『「平穏死」のすすめ－口から食べられなくなったらどうしますか』講談社文庫 2013 ほか

【成績評価の方法及び評価割合】　　講義中の討論と課題報告、最終レポートをもとに総合的に評価します。

【注意事項】　特になし

【備考】　特になし

授　業　科　目　名（科目の英分名）
児童・家庭福祉特論（Special Seminar of Child and family welfare）

必修 選択	単位	対象 年次	学期	曜・限	担当教員名
選択	2	1・2	前期	金・6	相澤仁

【授業のねらい】

児童虐待、少年非行、ＤＶなどの子どもや家庭の問題の現状と課題について取り上げ、その具体的な事例についてのケアマネジメントを行い、子どもやその家庭（障害者や高齢者を含む）、特に多問題家族を対象にした包括的支援についてミクロ・メゾ・マクロの視点から演習を通して学ぶ。

【具体的な到達目標】

・ケースについてのアセスメント・プランニングなどケアマネジメント及び包括的な支援についての基本的かつ実践的な知識や技術及び倫理ついて学ぶ。

・包括的な支援を展開する上で、必要な事業など社会資源のあり方やネットワークづくりについて学ぶ。

【授業の内容】

第１回：ガイダンス（児童・家庭福祉論についての概説）

第２回：児童虐待の現状と課題

第３回：少年非行の現状と課題

第４回：社会的養護を中心にした児童・家庭福祉の現状と課題

第５回：子どもの権利擁護１（制度・施策を中心にして）

第６回：子どもの権利擁護２（子どもアドボカシーを中心にして）

第７回：ケアマネジメント１（アセスメントを中心にして）

第８回：ケアマネジメント２（プランニング・実践を中心にして）

第９回：包括的支援１（理念・原理及び制度・施策を中心にして）

第10回：包括的支援２（ネットワークによる具体的な支援を中心にして）

第11回：ケースカンファレンス・チームアプローチ１（非行相談）

第12回：ケースカンファレンス・チームアプローチ２（虐待相談）

第13回：具体的な事例（多問題家族）検討

第14回：社会資源の開発・活用

第15回：まとめ（児童・家庭福祉論について総括する）

☆学生がより深く学ぶための工夫

能動的な調べ学習やグループ･ディスカッションを通じて、学生の動機づけを高め、深い学びに導く。

【時間外学習】現場を視察して専門家からの包括的な支援の現状と課題について学ぶ。

【教科書】なし

【参考書】　相澤仁編集代表「やさしくわかる社会的養護　全７巻」明石書店

相澤仁、林浩康編「社会的養護」中央法規

【成績評価の方法及び評価割合】　授業参画（発表）（50%）　レポート（50%）

【注意事項】なし

【備考】なし

授　業　科　目　名（科目の英分名）
障害者福祉特論 （Social policy and social work for people with disabilities）

必修 選択	単位	対象 年次	学期	曜・限	担当教員名
選択	2	2	後期	金・6	廣野俊輔

【授業のねらい】

変化が速い近年の障害者福祉について政策、地域、支援のそれぞれの観点から課題を見出し、その課題の解決についていかなる方策があり得るかを議論する。受講者ひとりひとりが障害者福祉の課題を能動的に見出し、自分なりの見解をもてるようになることをねらいとする。

【具体的な到達目標】

・日本の障害者政策に障害者の権利条約が与えた影響とその課題について説明することができる。

・精神障害者、知的障害者の脱施設の課題について現状と課題を説明することができる。

・障害の特性に合わせた支援方法について自分なりの意見を発表できる。

【授業の内容】

第 1 回：障害者福祉政策の歴史的展開（1）―国際障害者年以前の展開―

第 2 回：障害者福祉政策の歴史的展開（2）―自立支援法以前の展開―

第 3 回：障害者福祉政策の歴史的展開（3）―自立支援法以降の展開―

第 4 回：障害者福祉の理念

第 5 回：障害者と地域（1）―精神障害者の脱施設―

第 6 回：障害者と地域（2）―知的障害者の脱施設―

第 7 回：障害者と地域（3）―地域コンフリクト―

第 8 回：障害者に対する支援（1）発達障害者に対する支援

第 9 回：障害者に対する支援（2）高次脳機能障害者に対する支援

第 10 回：障害者に対する支援（3）パーソナリティ障害者に対する支援

第 11 回：障害者福祉の課題（1）―ユニバーサルデザインと障害―

第 12 回：障害者福祉の課題（2）―合理的配慮の浸透―

第 13 回：障害者福祉の課題（3）―雇用促進のための施策―

第 14 回：障害者福祉の課題（4）―共生型サービスの推進―

第 15 回：障害者福祉のこれから

☆学生がより深く学ぶための工夫

能動的な調べ学習やグループ･ディスカッションを通じて、学生の動機づけを高め、深い学びに導く。

講義の最後にコメントカードを回収し、次の講義で質問について回答する。

【時間外学習】　大学図書館等で福祉新聞を定期的に閲覧すること

【教科書】　教科書は使用せず、毎回の講義で資料を配布する

【参考書】　講義の中で適宜紹介する。

【成績評価の方法及び評価割合】

講義における発言などの参加度（20%）毎回、講義の最後に求めるコメントカード（30%）　期末レポート（50%）

【注意事項】　積極的に議論に参加すること

【備考】　なし

授　業　科　目　名（科目の英分名）
生活困窮者支援特論（Self-Support　of Needy Pearson）

必修 選択	単位	対象 年次	学期	曜・限	担当教員名
選択	2	1・2	前期	火・6	三好禎之

【授業のねらい】

福祉課題や福祉ニーズに対処するためには、従前は分離して議論されがちであった＜政策＞もしくは＜実践＞のいずれかの領域の内に視野を留めるのではなく、法や予算などの政策（マクロ）、事業の計画・運営（メゾ）、個別的な支援実践（ミクロ）といったそれぞれの位相で複層的に捉えて検討する必要がある。

本講義では、生活困窮者等の生活支援システムの課題やあり方の検討をとおして、マクロ・メゾ・ミクロそれぞれの位相から総合的にアプローチする視点と、政策と実践の両面から具体的な課題を分析する能力を得ることを目的とする。

【具体的な到達目標】

・具体的な福祉課題、福祉ニーズについて、マクロ・メゾ・ミクロの位相で捉えることができる。

・具体的な福祉課題、福祉ニーズについて、政策と実践の両面から具体的な課題を分析することができる。

【授業の内容】

第 1 回：授業の趣旨と計画及び生活困窮者支援についての概説

第 2 回：生活支援システムに関する理論と研究

第 3 回～第 4 回：社会政策と社会福祉

第 5 回～第 6 回：社会福祉研究における＜政策＞と＜実践＞

第 7 回～第 8 回：生活支援におけるマクロ・メゾ・ミクロ

第 9 回：生活支援システムに関する政策と実践

第 10 回：社会福祉における社会的排除／包摂論と政策動向

第 11 回～第 12 回：ホームレス、生活困窮者に対する支援策と研究

第 13 回～第 14 回：生活困窮者支援における政策、運営、実践の交錯

第 15 回：まとめ（生活困窮者支援についての総括）

☆学生がより深く学ぶための工夫

生活困窮に関する具体的な事例・ニュースなどを映像や資料により紹介し、問題の背景にある社会的要因について理解を促す。ディスカッションを取り入れることにより、問題・課題の多角的な理解と主体的な学びを促す。

【時間外学習】指定された資料を熟読しておくこと。

【教科書】特になし

【参考書】講義の中で適宜紹介する。

【成績評価の方法及び評価割合】

受講態度や発表内容等にもとづいて総合的に評価します。

【注意事項】特になし

【備考】特になし

授　業　科　目　名（科目の英分名）
医療福祉特論（Social Work in Health Care）

必修 選択	単位	対象 年次	学期	曜・限	担当教員名
選択	2	1・2	後期	木・6	上白木悦子

【授業のねらい】

本科目は、保健医療や医療福祉の領域におけるソーシャルワークの実践や諸課題をソーシャルワークの基本原則・理論に照らして理解することを目的とする。授業では、受講者（各回の担当者）が様ざまな文献やデータを踏まえたレジュメを用いて報告し、受講者と教員とで議論し、上記の理解を深める。また、改善が必要な事項については、今後のあり方を検討する。

【具体的な到達目標】

1. 保健医療や医療福祉の領域におけるソーシャルワークの実践や諸課題をソーシャルワークの基本原則・理論に照らして理解し、説明する。

2. 自己の価値観を大切にしつつ、価値観が異なる他者と対話できる視点を養い、実践する。

【授業の内容】

第 1 回：オリエンテーション／医療ソーシャルワークに関する概説及び文献紹介

第 2 回：緩和ケア・終末期医療における意思決定を通して 1

第 3 回：緩和ケア・終末期医療における意思決定を通して 2

第 4 回：医療ソーシャルワーカーの自己イメージ

第 5 回：ソーシャルワーカーの役割に関する意識

第 6 回：医療ソーシャルワーカーの業務継続

第 7 回：生命倫理・医療倫理

第 8 回：認知症当事者の思いに関する研究について

第 9 回：特定機能病院における医療ソーシャルワーカーの役割

第 10 回：救命救急センターにおける医療ソーシャルワーカーの役割

第 11 回：緩和ケア・終末期医療における医療ソーシャルワーカーの役割

第 12 回：医療ソーシャルワーカーの役割（英語文献使用）

第 13 回：地域包括ケアシステムにおける医療ソーシャルワーカーの役割 1

第 14 回：地域包括ケアシステムにおける医療ソーシャルワーカーの役割 2

第 15 回：講義のまとめと振り返り（医療ソーシャルワークについての総括）

☆学生がより深く学ぶための工夫

各回で指定された文献を批判的に読み解き、担当学生による報告とディスカッションを通して自分の考えを深めていくことを学ぶ。

【時間外学習】

1. テーマに関連する文献（英語論文を含む）をできるだけ多く読み、文献概要のレジュメを作成してください。またメディア等を通じて保健・医療をめぐる日本また世界の現状と課題に目を向けてみてください。

2. 講義を通じて得た学びを振り返り、またメディア等を通じて関連する保健・医療をめぐる日本また世界の現状と課題に関心を寄せてください。

【教科書】　教科書は指定しない。

【参考書】　1. 社会福祉士養成講座編集委員会編. 保健医療サービス. 中央法規. 最新年.　2. 岩渕豊. 日本の医療. 中央法規. 2015.　3. 財団法人 厚生統計協会. 国民衛生の動向. 最新年. 4. 赤林朗編. 入門・医療倫理Ⅰ（改訂版). 勁草書房. 2017.

【成績評価の方法及び評価割合】

1. システマティック レビューを踏まえたレジュメを作成することができる。(25%)

2. クリティカル シンキングおよび論理的思考を踏まえた解釈をすることができる。(25%) 3. レジュメに基づいた報告を行うことができ、また互いの報告について討論を行うことができる。(25%) 4. 医療ソーシャルワークに関する基本原則を理解し、健康福祉の実践の場における諸課題に対応するための基礎力を身につけることができる。(25%)
【注意事項】　医療ソーシャルワークの諸課題について、自らの関心に引き寄せて考えていただければと思います。講義内容と実践の場の現状を比較し、各自、実務のあり方を検討してください。
【備考】　特になし

授　業　科　目　名（英語名）
福祉心理学特論（福祉分野に関する理論と支援の展開） （Special Seminar on Clinical Psychology in Welfare（Support Theory and Practice for Welfare Support）） Theory and Practice for Welfare Support））

必修 選択	単位	対象 年次	学期	曜・限	担当教員名
選択	2	1・2	前期	金・1	飯田法子

【授業のねらい】
本科目では、虐待、DV、障害者福祉、児童家庭福祉、高齢者福祉、地域福祉について概説しつつ、それぞれに関する心理学的な支援の実際について取り上げる。福祉領域における支援は多岐に渡るが、医療や教育といった関係領域との連携抜きに行うことはできないため、その点についても積極的に学びを展開する。

【具体的な到達目標】
・福祉の現場における心理支援の知識や求められる技能を習得すること
・福祉の現場における心理支援に必要な、多職種協働のあり方などの知識を習得すること
・虐待問題に関する専門的な知識と支援技法を習得すること

【授業の内容】
第1回：福祉心理学概説①：定義・歴史・問題
第2回：福祉心理学概説②：主要な理論
第3回：福祉心理学概説③：支援の目的と活動領域
第4回：福祉心理学概説④：多職種連携と地域連携
第5回：虐待・DV問題と福祉心理学
第6回：虐待・DV問題に関する心理支援
第7回：障害福祉
第8回：障害福祉分野における心理支援
第9回：児童家庭福祉
第10回：児童家庭福祉分野における心理支援
第11回：地域福祉
第12回：地域福祉分野における心理支援
第13回：心理的な疾患と福祉心理学の実践
第14回：福祉心理学の広がり：高齢者福祉、自殺予防、ひきこもり対策、離婚問題等
第15回：まとめ
☆学生がより深く学ぶための工夫
能動的な調べ学習やグループ･ディスカッションを通じて、学生の動機づけを高め、深い学びに導く。

【時間外学習】上記の内容に関する課題（詳細は別途指示する）

【教科書】なし。適宜資料を配布する。

【参考書】講義中に適宜紹介する。

【成績評価の方法及び評価割合】
上記の内容に関する取り組み（50%）、最終レポート（50%）

【注意事項】積極的に議論に参加し、自分の意見を述べること。

【備考】この科目は臨床心理士受験資格取得に関するC群科目であり、公認心理師受験資格取得に関する必修科目である。